山陰　中央新報　1993年（平成5年）9月17日（金曜日）

小松電機産業

松江に本社機能移転

造成中の湖南誘致企業団地に 新工場も建設へ

高速で自動開閉するシートシャッターを開発するなどベンチャー企業として知られる小松電機産業（本社・島根県八雲村東岩坂、小松昭夫社長）が、本社機能を松江市に移転、併せて新工場を建設する拠点化計画が十六日までに固まった。松江市が研究開発型の企業団地として同市乃木福富町と玉湯町にまたがる丘陵地で造成を進める「湖南誘致企業団地」（仮称）の中核企業として進出するもので、「見せる工場」をコンセプトに新しいタイプの工場づくりを目指す。

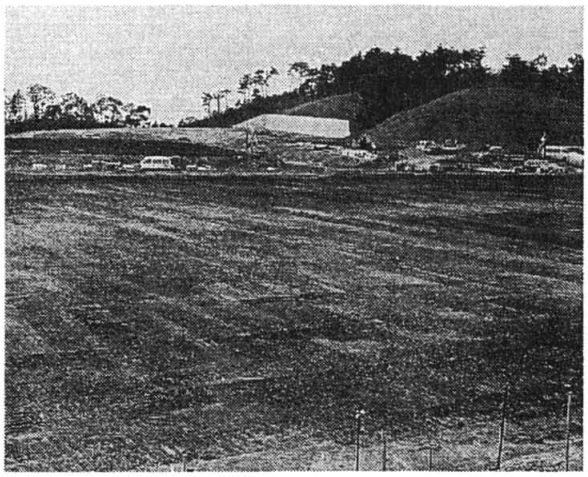
同社が進出する企業団地は、松江市以外から研究開発型の企業を誘致するテクノパークとして開発計画が立てられ、平成三年から用地買収にかかり、今年十二月に造成が完了する予定になっている。

企業団地は宍道湖を北に望む高台の十三㌶で、公園や道路を除く約六・五㌶を誘致企業三、四社に振り分ける。進出第一号となる同社の敷地面積二・五㌶は、八雲村にある現在の本社工場の三倍となる。

企業団地計画が浮上した早い時期から同社は進出に意欲的だったが、このほど開かれた市の誘致委員会で進出が内定し、実質上のゴーサインが出た。今後は島根県の企業立地条例に基づく審査を経て、調印する手続きが残っている。

同社は、移転によるスペース拡大により研修施設を建設、これまで温めてきた社外を巻き込んだ人材育成に本格的に実施。現在、八雲村の本社工場と同村内の熊野工場は分工場として継続させ、新工場建設により生産増大への対応と事業の多角化に備えていくものとみられている。

同社は昭和四十八年の創業で、マイコン内蔵の電子制御装置と超音波センサーを組み合わせた自動開閉のシート型シャッターを開発。業界シェア六五%を占めているほか、上下水道遠方監視装置の製造、販売により年間三十四億五千万円（平成五年七月決算）を売り上げている。



丘陵地で造成が進められている湖南誘致企業団地＝松江市乃木福富町